

公立八鹿病院組合

管理者 富 勝治 様

監査委員 今 井 久 雄

監査委員 藤 井 昌 彦

令和2年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算審査意見書

地方公営企業法第30条第2項の規定により、令和2年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算につき、審査の結果、次のとおり意見を付する。

第1 審査の概要

1 審査の期間

令和3年6月11日から25日まで

2 審査の対象

令和2年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算

3 審査の方法

令和2年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算の審査にあたっては、都市監査基準に準拠して、管理者から提出された決算書について、決算報告書、財務諸表、決算附属書類並びに事業報告書をもとに審査を実施した。関係会計諸帳票及び預金残高証明書等証拠書類と内容の照合点検を行い、財政状態及び経営状況の実態を把握した上で各種資料により、過去数年の経営状況等の推移、他病院や全国平均との比較、ならびに経営分析指標に基づく検討や分析、実査を行い、事業の効率執行などを主眼に決算審査を実施した。

4 審査の結果

決算書及び決算附属書類等は、法令に準拠して作成され、当監査委員は意見表明の基礎となる適切な監査証拠を入手したと判断した。計数は正確であり、経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。

第2 総 説

1 事業量

病床数は、422床(一般380床〔八鹿338床、村岡42床〕、療養35床〔八鹿35床〕、結核7床〔八鹿7床〕)である。令和2年度の年間入院患者総数は、104,754人(前年度108,263人)で3,509人(対前年度3.2%)の減少。内訳は八鹿病院で3,423人減、村岡病院で86人減となっている。病床利用率は八鹿病院が69.6%(前年度71.9%)、村岡病院が53.8%(前年度54.2%)と減少。全体で68.0%(前年度70.1%)と減少した。年間外来患者総数は、127,442人(前年度139,074人)で11,632人(8.4%)減少しており、内訳は八鹿病院で10,155人の減、村岡病院は1,477人の減となっている。

2 経営状況

(1) 八鹿・村岡病院事業の収益的収支の状況

令和2年度の病院事業収益は、7,696,943千円(前年度7,394,156千円)で、対前年4.1%の増加、病院事業費用は、8,008,314千円(前年度7,821,508千円)で、対前年2.4%増加し、医業収支比率は84.9%(前年度87.7%)と2.8ポイント悪化し、経常収支比率は、96.1%(前年度94.5%)で1.6ポイント改善した。

病院事業収支差引純損失は311,372千円(前年度純損失427,352千円)となり、前年度より115,980千円改善している。

病院事業別では、八鹿病院が純損失329,267千円(前年度443,445千円)と改善し、村岡病院は純利益17,895千円(前年度純利益16,093千円)と前年度に続き黒字となった。

医業収益は6,410,769千円(前年度6,581,749千円)で170,980千円(2.6%)の減収となっている。主なものは入院収益で22,201千円(0.5%)減収し、外来収益は143,777千円(8.4%)の減収となっている。

医業費用は、7,551,767千円(前年度7,507,355千円)で対前年44,412千円(0.6%)増加している。

費用増加したものは、給与費38,741千円、経費60,149千円、資産減耗費55,704千円の増などであり、費用減少した主なものは、材料費60,903千円、減価償却費38,961千円、研究研修費9,165千円の減などである。

八鹿病院では、入院患者一人一日あたりの収益が42,965円(対前年1,236円増額)、外来患者一人一日あたり収益は11,858円(対前年83円減額)となった。村岡病院では、入院患者一人一日あたり収益が30,938円(対前年481円増額)、外来患者一人一日あたり収益

は 17,210 円(対前年 1,050 円増加)となっている。

(2) 病院事業の職員数及び職員給与費の状況

令和2年度末の職員数は、合計 774 人で、前年度に比べ7人の増員となっている。職種別の職員一人当りの平均給与月額 は 492,383 円で、平均年齢、平均経験年数等からみて、全国平均の額 594,136 円を 101, 753 円下回っている。給与費は、令和2年度は 4,672,467 千円(前年度 4,633,725 千円)で 38,742 千円増加している。

(3) 医師数の状況

医師数は平成 18 年度 58 人(八鹿病院 54 人、村岡病院 4 人)以来減少し続け、平成 23 年度の 38 人を底に、平成 24 年度は 1 人増員し 39 人、平成 25 年度は 5 人増員し 44 人と増加したが、平成 26 年度は 3 人減員し 41 人、平成 27 年度は 1 人減員し 40 人、平成 28 年度は 2 人増員し 42 人、平成 29 年度は 3 人減員し 39 人、平成 30 年度は 5 人増員し 44 人、令和元年度は 1 人増員し 45 人、令和2年度は5人増員し 50 人(八鹿病院 47 人、村岡病院 3 人)の体制である。

(4) 病院事業の材料費等の状況

材料費は、972,196 千円(前年度 1,033,099 千円)で 60,903 千円減額し、医業収益に対する割合は 15.2%(前年度 15.7%)と対前年 0.5 ポイント減少している。

経費については 1,038,399 千円(前年度 978,250 千円)と前年度に比べ 60,149 千円増加した。内訳は委託料 572,523 千円(八鹿病院 524,375 千円、村岡病院 48,148 千円(前年度 532,563 千円))、光熱水費 118,190 千円(八鹿病院 109,609 千円、村岡病院 8,581 千円(前年度 125,162 千円))、修繕費 77,548 千円(八鹿病院 68,949 千円、村岡病院 8,599 千円(前年度 54,482 千円))などが主なものである。

(5) 資本的収支の状況

令和2年度の医療機器等整備事業は、主なものとして八鹿病院では、電子カルテ整備事業(825,330 千円)、血管造影 X 線検査装置の更新(109,043 千円)、デジタル X 線透視撮影システムの更新(31,900 千円)、一般撮影装置(28,325 千円)などを行っている。

施設整備事業は、主なものとして八鹿病院では蒸気ボイラー更新工事(30,184 千円)、電子カルテ系有線 LAN 設備更新工事(19,800 千円)、電子カルテ系無線 LAN 設備更新工事(17,600 千円)、病棟改修工事(10,604 千円)を行っている。村岡病院では受水槽更新工事

(14,761 千円)、老人保健施設では受水槽更新工事(19,119 千円)を行っている。

資本的支出の総額は 2,098,630 千円(前年度 938,862 千円)で、その支出内訳は、企業債償還金 799,850 千円(前年度 822,254 千円)で構成割合は 38.1%(前年度 87.6%)、建設改良費 1,253,960 千円(前年度 70,478 千円)で構成割合は 59.8%(前年度 7.5%)、投資 44,820 千円(前年度 46,130 千円)で構成割合は 2.1%(前年度 4.9%)となっている。

これらに対する財源は、構成市町である養父市と香美町が負担する他会計繰入金 1,117,477 千円(前年度 583,861 千円)、企業債 765,100 千円(前年度 58,700 千円)、補助金 20,252 千円(前年度 0 円)、投資回収金 14,517 千円(前年度 65,725 千円)、寄付金 609 千円(前年度 300 千円)、固定資産売却代金 51 千円(前年度 0 円)で、資本的収入の総額が 1,918,006 千円(前年度 708,586 千円)に留まり、差引財源不足額は 180,624 千円となり、損益勘定留保資金等により補填している。

(6) むらおか訪問看護ステーション

一日平均利用者数は、19.5 人(前年度 18.1 人)と 1.4 人の増となった。療養料収益は 48,761 千円(前年度 44,899 千円)と 3,862 千円(8.6%)の増収となっている。事業収支は 9,340 千円(前年度 3,605 千円)と 5,735 千円増額し、引き続き黒字を計上している。

(7) 看護専門学校

総収益 126,346 千円(前年度 132,011 千円)、総費用 157,035 千円(前年度 168,905 千円)で差引純損失は 30,689 千円(前年度純損失 36,894 千円)となり、前年度に比べ 6,205 千円改善している。内訳は、収益では、事業収益 29,133 千円(前年度 31,759 千円)で総収益に対する構成割合は 23.1%(前年度 24.1%)、事業外収益 96,843 千円(前年度 100,252 千円)で構成割合は 76.6%(前年度 75.9%)となっている。看護学校事業という特殊性により、補助金、負担金交付金はそれぞれ補助金 17,238 千円(前年度 16,738 千円)、負担金交付金 44,965 千円(前年度 47,711 千円)と合わせて 62,203 千円(前年度 64,449 千円)で構成割合 49.2%(前年度 48.7%)と外部資金への依存度が高い。

事業費用は 144,806 千円(前年度 153,654 千円)であり、主な内訳は給与費 98,429 千円(前年度 107,761 千円)で総費用に対する構成割合は 62.7%(前年度 63.8%)、経費 22,159 千円(前年度 21,758 千円)で構成割合は 14.1%(前年度 12.9%)、減価償却費 22,031 千円(前年度 22,237 千円)で構成割合は 14.0%(前年度 13.2%)となっている。事業外費用は、11,649 千円(前年度 15,251 千円)で、内訳の主なものは支払利息 9,234 千円(前年度 13,118 千円)で 5.9%(前年度 7.7%)の構成割合となっている。

(8) 福祉センターの状況

① 老人保健施設

年間利用者数は施設サービス、短期入所療養介護、重症心身障害児(者)短期入所を合わせた入所者数 32,721 人(前年度 31,488 人)で対前年 1,233 人増加し、通所者数 11,752 人(前年度 11,020 人)で対前年 732 人増加している。事業収益は 604,362 千円(前年度 569,142 千円)と 35,220 千円の増収となっている。事業収支は、総収益 635,024 千円(前年度 603,629 千円)、総費用 660,477 千円(前年度 622,588 千円)で差引純損失は 25,453 千円となり、前年度純損失 18,959 千円から悪化した。総収益に対する構成割合は、事業収益 604,362 千円(前年度 569,142 千円)で 95.2%(前年度 94.3%)、事業外収益 25,077 千円(前年度 34,487 千円)で 3.9%(前年度 5.7%)となった。

事業収益は、入所収益 450,435 千円(前年度 430,207 千円)で構成割合は 70.9%(前年度 71.3%)、通所収益 127,819 千円(前年度 118,256 千円)、構成割合は 20.1%(前年度 19.6%)が主なもので、事業外収益については、負担金が 4,605 千円(前年度 9,773 千円)で、構成割合は 0.7%(前年度 1.6%)と収益の主なものとなっている。

費用では事業費用 634,922 千円(前年度 602,444 千円)で総費用に対する構成割合は 96.1%(前年度 96.8%)。事業外費用は 18,870 千円(前年度 20,144 千円)で、2.9%(前年度 3.2%)となっている。

事業費用の内訳は、給与費 486,053 千円(前年度 456,690 千円)で構成割合は 73.5%(前年度 73.4%)、経費 115,260 千円(前年度 114,504 千円)、構成割合は 17.5%(前年度 18.4%)が主なもので、事業外費用は、支払利息 7,031 千円(前年度 9,773 千円)が主なもので構成割合は 1.1%(前年度 1.6%)となっている。

② 南但訪問看護センター

利用者数が対前年 1,057 人減少し、一日平均利用者数は 144.7 人(前年度 149.7 人)と 5 人減少したことにより事業収支は対前年 15,008 千円の減益となった。

総収益 351,195 千円(前年度 357,133 千円)、総費用 310,693 千円(前年度 301,624 千円)で差引き 40,502 千円(前年度 55,509 千円)の黒字となっている。内訳は、事業収益では療養料収益が 346,326 千円(前年度 353,422 千円)、総収益に対する構成割合は 98.6%(前年度 99.0%)とほぼ全額を占め、事業費用では給与費が 281,054 千円(前年度 270,507 千円)で、総費用に対する構成割合は 90.6%(前年度 89.7%)となっている。

③ 居宅介護支援事業所

事業開始 20 年が経過し、年間プラン作成件数は 1,392 件(前年度 1,361 件)となっている。事業収支状況は、総収益 19,747 千円(前年度 19,394 千円)、総費用 27,295 千円(前年度 27,691 千円)で、差引純損失 7,547 千円(前年度純損失 8,297 千円)となり、対前年 749 千円改善した。事業収益では受託収益が 19,215 千円(前年度 19,106 千円)で総収益に対する構成割合は 97.3%(前年度 98.5%)、事業費用では給与費が 25,857 千円(前年度 25,872 千円)で総費用に対する構成割合は 94.8%(前年度 93.4%)となっている。

3 審 査 意 見

令和2年度の収支については、組合全体で収入 8,878,417 千円(前年度 8,551,320 千円)、費用 9,203,636 千円(前年度 8,983,707 千円)で差し引き 325,219 千円(前年度 432,387 千円)の純損失を計上した。新型コロナウイルス感染症の流行拡大による影響で、医業収益が 170,980 千円の減収となったものの、分賦金条例の改正を受けて、負担金交付金が 145,183 千円増額となったことなどから、組合全体の収支は 107,168 千円改善した。

構成市町からの負担金が増額となったもののコロナの影響を払拭することはできず、当年度未処理欠損金 2,035,689 千円(前年度未処理欠損金 1,710,470 千円)を計上する決算となった。八鹿病院、村岡病院の入院患者数は 104,754 人となり、前年度 108,263 人から 3,509 人(八鹿 3,423 人、村岡 86 人)減少した。外来患者数においては 127,442 人となり、前年度 139,074 人から 11,632 人(八鹿 10,155 人、村岡 1,477 人)減少している。前年度、八鹿病院の患者数は入院患者数が 2 年連続で増加し、外来患者数に於いては平成 26 年度以来 5 年ぶりの増加となり、さらなる経営改善を目指していたところをコロナ禍により影響を受けている。

八鹿病院は、同規模の黒字公立病院の全国平均及び近隣の公立病院に比べ、外来患者数が少ない状況にある。村岡病院は、平成 30 年 10 月に地域包括ケア病床を 21 床に増床したことなどにより、3年連続で入院単価が増加している。南但訪問看護センターは、産休、育休により稼働職員数が減り、利用者数が対前年 1,057 人減少した。看護専門学校については、卒業生 21 人の内、当病院へ 13 人が就職しており、看護師確保に寄与している。また但馬地域の医療機関の看護師確保にも貢献している。

収入の増加を図るには、地域が必要とする診療科医師の確保が急ぐべき最重要課題であり、地域医療の充実並びに健全経営を達成するためにも、引き続き積極的な取り組みを望む。医師修学資金貸与制度による修学資金貸与者は平成 30 年度 3 人、令和元年度 3 人、令和2年度

3人の合計9人の医師が当病院に着任している。これら若手医師の指導育成に尽力していただくと共に、その活躍に期待する。

当病院は、医師数が少ない一方、医師以外のリハビリ技師等コメディカルスタッフが充実しており、また最新の医療機器が導入されていることから、これらの長所を生かして、総合診療部門のさらなる活用や年度当初、コロナ禍で一時休止していた人間ドック・検診事業の積極的な受け入れなど、利用者数増加の取り組みを望む。

当病院は構成市町民のための地域中核病院として地域住民の期待は大変大きなものがある。今後も医療の安定供給のために、本体である病院の健全経営が求められている。厳しい経営状況が続いていることから、構成市町は勿論、周辺地域からも当病院の利用者増加に注力し、経費削減にも留意して、改善に努められたい。

そのためには、地域住民の協力が必須であり、好評であった地域に出向いた健康講座の開催及び八鹿病院ニュース等により住民の理解と協力を得て、良質な医療の提供、経営改革に尚一層の努力を求めらる。

むすびに、当病院の医療従事者としての基本理念である「医の倫理を基本に、質の高い医療と優れたサービスをもって、住民の健康を守り、地域の発展に尽くす。」および行動指針にある「患者中心の医療」、「思いやりのある医療サービスの提供」を大切に運営していただきたい。